# ゼロエミッションを達成

ムラタでは、廃棄物による環境影響をゼロに近づけるため、ゼロエミッション（埋立ゼロ=リサイクル率100%）を目指し、再利用・再資源化を推進してきました。とくにムラタの特徴といえる電子部品の原料製造や焼成・成型などの工程から発生するセラミック系廃棄物のリサイクル化は困難をともないましたが、生産工程の見直しや発生した廃棄物の分別細分化のほか、廃棄物処理業者と協力して、リサイクル方法やルートの開拓も進めました。その結果、2004年3月末に対象となる国内21事業所・子会社においてゼロエミッションを達成しました。

## ■2003年度の目標（国内リサイクル率100%）を達成しました。

### 1.総排出量とリサイクル率の推移

**廃棄物の排出量とリサイクル率の推移は下記のとおりです。**

| | 00年3月末 | 01年3月末 | 02年3月末 | 03年3月末 | 04年3月末 |
|---|---|---|---|---|---|
| 総排出量(t/月) | 2,942 | 3,504 | 2,176 | 2,361 | 2,852 |
| リサイクル率(%) | 31.7 | 38.3 | 53.4 | 84.9 | 100 |

### 2.再資源化例

**主な廃棄物分類ごとの再資源化例は下記のとおりです。**

| 廃棄物 | 再資源化例 |
|---|---|
| 汚泥 | セメント原料、建設資材（路盤材等） |
| 廃プラスチック | PET原料、固形燃料、高炉還元剤 |
| 廃酸、廃アルカリ | セメント原料、建設資材（路盤材等） |
| 廃油 | 再生溶剤、セメント原燃料 |
| 金属くず | 金属原料 |
| ガラス陶磁器くず | セメント原料、建設資材（路盤材等） |
| 紙 | 再生紙 |

**セラミック付きフィルムのリサイクル**

剥離処理装置

剥離処理後（PETフィルム）
➡ 自動車用の座席シート・マットなどへ

剥離処理後（セラミック）
➡ 非鉄金属材料などへ

廃棄物の分別回収

## 3.リサイクル率の向上の歩み

ムラタの事業活動にともなう廃棄物に起因する環境負荷をできる限りゼロに近づけるために、廃棄物の排出を抑え、再利用・再資源化を推進することにより、循環型社会の構築を目指しています。

そのひとつとして、ムラタ環境憲章に掲げる「環境に配慮した事業活動」のテーマのもと、2003年度末までにゼロエミッションを達成するという行動計画を立て、対象となる廃棄物※1の埋立ゼロ※2（リサイクル率100%）を目指して活動してきました。

従来、30%程度にとどまっていたリサイクル率は、活動を開始した2001年度末に50%を超え、2002年度末は約85%に達しました。

生産工程の見直しや、発生する廃棄物の分別方法見直しのほか、廃棄物処理業者と協力して、発生した廃棄物をリサイクルする方法や新たなリサイクルルートの開拓も進めてきました。

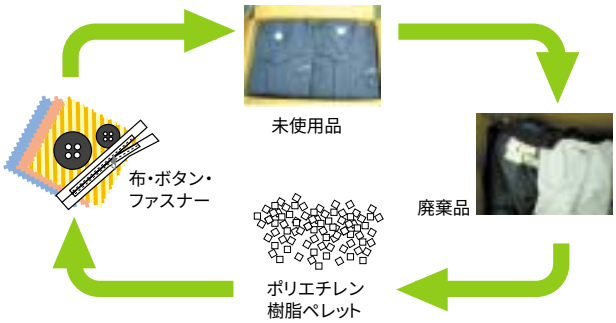
プラスチックや金属くずなど、一般的に発生する廃棄物については、リサイクルルートが確立されており比較的容易にリサイクル化することができました。一方、ムラタの特徴ともいえる電子部品の原料の製造や焼成、成型などの工程から発生する原料系の廃棄物や焼成に使用する治具、さやの廃棄物などは、既存のリサイクルルートも少なく、これらのリサイクル化は困難をともないました。

しかし、ゼロエミッションを達成するという強い意志をもって取り組んだ結果、ムラタ環境憲章の行動計画通り、2003年度末に国内の全事業所・子会社においてゼロエミッションを達成しました。

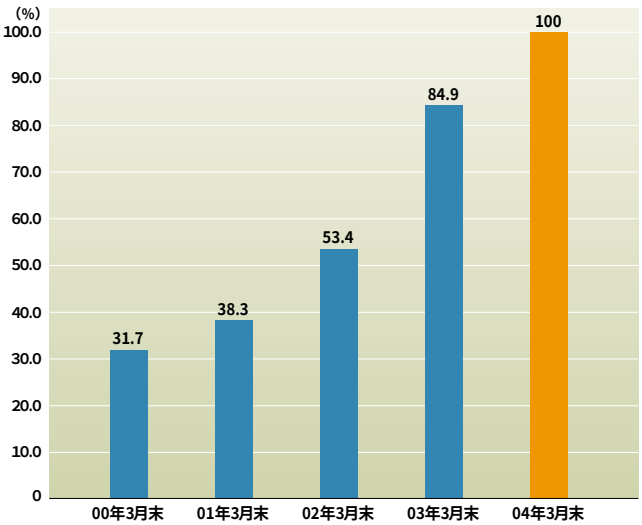
※1 ゼロエミッション活動の対象となる廃棄物
ムラタでは、自らの取り組みだけでは対応できないと考えられる廃棄物をゼロエミッション及びリサイクル率の対象から除いています。
例）浄化槽余剰汚泥、公共施設での処理が指定されている一般廃棄物など。

※2 埋立ゼロ
直接埋め立てする廃棄物をゼロにするだけでなく、中間処理（焼却・中和など）後の残さ・汚泥なども含めて埋め立てする廃棄物をゼロにすることをいいます。

### ユニフォームのリサイクル




ムラタグループ各社で使用しているユニフォームのリサイクルを促進しています。ポリエステル100%のユニフォームを使用し、着古されたユニフォームは、ポリエステル再生処理会社と連携し、ユニフォームなどのポリエステル製品として再資源化しています。

### リサイクル率の推移

リサイクル率（国内）